
莎月の短編こぼれ話

莎月 双樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

莎月の短編こぼれ話

【Nコード】

N0772R

【作者名】

莎月 双樹

【あらすじ】

作者・莎月双樹の短編に関する削除したエピソードや後日談、裏設定など、短編を立てるほどではない話を「こぼれ話」としてこの中にまとめていきたいと思っています。

短編を読んでいることが前提となっていますので、まだ読まれていない方はお手数ですが先に短編を読まれることをお奨めいたします。

R15設定は念のためです。

嵐の前の平和（前書き）

R15は念のためです。

思いついて書き上げた時点で話を追加していきますので、順番などはランダムです。

同様の理由で不定期投稿となります。

こぼれ話を読まれて「短編のイメージと違う」と思われることが、もしかしたらあるかもしれませんが、念のため、事前におことわり申し上げます。

嵐の前の平和

とある世界のとある大陸のとある王国の城の地下にあるとある部屋。

その部屋は「招喚の間」と呼ばれていた。その名のとおり招喚——招き呼ぶこと（by 広辞苑）——を行う部屋である。窓もなく、壁から床から天井まで石でがっちりと組まれた室内では、ただいま招喚の儀式の真つ最中だった。

床で淡く光る招喚陣を囲む6人の神官——皆フードを目深に被って顔はわからない——を除けば、室内にいるのは儀式を監督する高齢の神官長、若き国王、若き將軍、若き王佐の4名である。

ちなみに全員男であるのは、万一儀式が失敗して魔物などが出現した場合に備えてである。

しかし、ここ300年ほど儀式が失敗したことがなく、そのせいか若い——いずれも20代である——3人の間にはまったりした雰囲気の流れているのはその会話からも明らかだった。

「さてさて、現れる『救世の乙女』とは女神か魔物か、楽しみだな。」

3人の真ん中に立つ若き国王がにやりと笑みを浮かべて両隣の青年たちへ声をかけると、その左に護衛として立つ將軍は

「自分の妃となるかもしれない者を魔物よばわりか？」

ぶっきらぼうとも言える口調で返し、3人の中では一番年上の王佐は「魔物ですか？召還されるのはいつも『天上人の如き美を備えたる』と言われますか？」

と穏やかな口調で主に問う。

「過ぎたる美しさは魔性を備えると言うではないか。それに力ある

魔物の雌は男をたぶらかすために人にあらざる美しき皮を被るものだ。」

己の片腕である將軍と次期宰相有力候補と言われる王佐にそう言うてのけると、肩をすくめて見せた。

実はこの3人、それぞれ年齢や立場は違うが、親同士の関係や思惑によつて幼い頃からよく学びよく遊んだいわゆる幼馴染であつたため、3人だけの会話になると砕けてしまうことがしばしばだったりする。

今は儀式の真つ只中で、この場には他にも神官長や神官たちが居るのだが、儀式が始まつて既に1時刻（2時間）以上経ち、始めの内こそ緊張していた3人の気もすっかり緩んでしまったようだった。

「お前がおとなしく誑かされるタマか？」

將軍が問えば。

「あー、あちこちのご令嬢やご夫人に言い寄られても上手くあしらつてらっしゃいますねえ。」

王佐が答え。

「そうだったかな？」

国王がとぼける。（いや、これが地か？）

「おい、こいつの方が参つてメロメロになつた相手とかいなかったのか？」

「そうは言われなくても…ロットイヤー伯のご令嬢も、キンブリー男爵夫人も、フレイフルの、一の華姫、も袖にしてらっしゃいましたからねえ。」

「そいつあーすげえな。」

挙げられた女性はそれぞれ『天使の如き愛らしさ』、『朝露の如き儚き美貌』、『都随一の歓楽街で最も美と知を兼ね備えた娼姫』

で知られる、国の『三大美女』と称される女性たちである。それらを皆袖にしたというのだから將軍のセリフはごもつともであるのだが、

「いやあ、照れるなあ」と言いながら国王が可愛く頬を染めて照れている（フリをしている？）のがよくわからない。

「セイ様、ラク將軍は褒めてらっしゃるわけではないと思いますよ」王佐がにこやかに微笑みながら冷静につっこむ。

「シンの言つとおりだ。お前が照れても可愛くねーからヤメロ」
頷く將軍。

そこで緊張感の無い会話が終わるかと思いきや、

「まあ、なんだ。出てくるのがお前の好みのタイプだと良いな」

‘空気を読まない’ことで有名な若い將軍がさらに続ける。

「そう言えば長い付き合いですけど好きな女性のタイプって聞いたことないですね。」

とその話に王佐が乗り。

「うーん、自分でもイマイチわかんないんだよねえ。」

本気で首を傾げている（ように見える）国王。

「マジか？」

「あちこちのご令嬢やご夫人に言い寄られても上手くあしらってらっしゃるので、てつきり理想像があって、それ以外嫌、なのか思ってたんですけど」

驚く幼なじみ二人をよそに、

「そうだったかな？」

さらに首を傾げる国王。…それ以上傾けると倒れそうである。

更には、何とか侯爵の子息がどここの令嬢に言い寄っているだの、近衛騎士団の一番人気の騎士の想い人は誰だだの、すっかり恋バナで盛り上がっている。

背後でますます緊迫感が無くなっていく会話に、こめかみに血管を浮き立たせつつも、ここで怒鳴って儀式を妨げてはと錫杖を持つ手をふるふると振るわせながらぐっと堪えている神官長が哀れかもしれない。

（過去に神官長の怒鳴り声で飛んでいた鳥が気絶して落ちてきたことが本当にあったものだから、ここで怒鳴られると神官たちの集中が妨げられて儀式の失敗は間違いなかったりする。）

そうこうするうち——幸いにも神官長の頭の血管が切れる前に、床の招喚陣が放つ光が強くなっていき——

「来ますぞ——！」

神官長の叫びと共に弾けた。

ある意味、穏やかな時間が終わりを告げるまで、あと少し……

こんていにゆう・もーど（前書き）

4月16日投稿の「とあるダンジョンからの脱出」のプチ続き話です。

投稿したものの、いささか終わり方が唐突な気がして書きました。

「とあるダンジョンからの脱出」を読んでいない方は、先にお読みいただくことをお勧めいたします。

こんていにゆう・モード

こんにちは（それともこんばんは？）、村人Aなのに塔（実際は職場ビル）のテッペンに攫われた三上静子です。

ダンジョンマスター改め実は魔王だった警備主任に巣穴に引き込まれましたが、何とか喰われることなく帰宅することができました。

……まあ、いろいろと揉めましたけどね。

お腹とか！

二の腕とか、お腹とか！

太ももとか、お腹とかっ！！（どんだけ腹プニが好きなんだよ魔王！！！）

拳句抱き枕にされましたけど（orz）

起き抜けにもまあ主任の気が済むまで揉み倒されましたけどっ

（orz×2・泣）

夜間警備モードが解除されるや否やソッコーで逃げ出しました。

ちなみに敵が食料調達に赴いた隙をついたでアリマス。

……偶々ですが翌日が土曜（＝仕事がお休み）でほんっとおーにっ！良かったです。

………警備室のオツチャンの無理矢理逸らされた視線がイタかったデスけどね（涙×2）

しかし問題は次回以降ですよ。

まあ主任は夜行性らしく昼間に社内で行くわしたことはナイの
で良いんですが。

月齢15.9の日は嫌でもそのうち巡ってくるもの。

このまま‘いつか’喰う気満々のまあ主任に捕まり続けたら、

間違いなく、間違いなく……

#@**&%な目に遭ってしまっ！！

いやーっ！！ それだけはいー やー だー あああ

ああああああ！！！！！！

……

……

…………… ワンルームのささやかな（ちっこい言うな！）マ
イルームで震えてみましたが、すぐに良いアイデアが思いつくハ
ズもなく、とりあえず栄養補給することにしました。 どうせ数ヶ月
先のことですし、（現実逃避とか問題の先送りとかじゃナイデスヨ
？）

昨晚まおー主任に揉まれながら食べた夜食なんてとくに揉み出
されちゃいましたしね（遠い目）。

せつかくだから気分転換にお外のカフェでも行ってリッチーなブ
ランチでもしよっかしら

なんてちよつと浮かれモードに入っていた私。

まおー主任が食料調達の成果を携えて急襲をかけようとしている
などとは思ってもよらず……

【教訓】

皆様、ドアは開ける前にちゃんと相手を確認しましょう。
後悔役立たずです（大泣）

「んていにゆう・もーど（後書き）」

「とあるダンジョンからの脱出」より先に書いた短編の小ネタもあるのですが、保存データが消えて掲載できず…（そのうち書き直すとは思っているのですが……）。

投稿した手の「とあるダンジョンからの脱出」の読後の落ち着かなさが気になってこちらが先になってしまいました。
いずれ、また……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0772r/>

莎月の短編こぼれ話

2011年4月18日02時29分発行